第6章

TOEIC攻略法

Introduction

「TOEIC や英検の攻略に英英辞典が効く」って、いまだにピンとこない……。
それなら、この第6章を読んでください。
後半では英英辞典にとどまらず TOEIC Listening & Reading に向き合うための耳寄りなコツの数々も披歴してあります。

言い換え表現の「マル暗記」勉強法？

*「なるほど TOEICにも英検にも英文和訳はない。**英語を別の英語でどう言い換えるかがポイント**だ、というのはわかった。四択問題で、ちゃんとした言い換え表現をすばやく見つけられることを目指すわけだな」*

そのとおりです。

*「単語の意味を覚えるとき、これまでは英和辞典で最初に出てくる和訳を暗記してきた。今後はその代わりに英単語の言い換え表現をしっかりおさえろということだな。つまり、**英英辞典に英語で書いてある定義をマル暗記しろということか？**　そんなの、とてもムリだ！」*

はい、ムリだと思います。

*「しかも**英単語の言い換え表現はいろいろある**だろう。**そもそも英英辞典によって、同じ単語でも説明表現は異なる。**かりに英英辞典に出ている言い換え表現をマル暗記したとしても、別の言い換え表現が四択問題に出てきたら事前準備は全部ムダになる！いったいどうすればいいのだ」*

日本人は、きまじめです。このような戸惑いを漠然と感じている読者もおられるでしょう。わたしなりにお答えするところから始めましょう。

じつは本書執筆の途中にあれこれ読んだなかで、3人の論者が「英英辞典の語釈のマル暗記」をすすめているのに相次いで遭遇し、驚き、あきれました。まさかと思い「英英辞典　暗記」でネットを

検索してみると、そういう論者が他にもいるわ、いるわ、いやはやビックリです。

読んだ語釈のキーワードが記憶に残ったというなら自然だと思いますが、英英辞典の語釈はけっこう長い。それをマル暗記せよとは、どう考えてもムリすじです。そんなムリすじをひとにすすめるから、英英辞典がますます敬遠される。そもそもそういう暴論をひけらかす論者は英英辞典をどう使っているのか。そっと横に立って拝見したいものです。

わたしは自他ともに認める「英英辞典づかい」ですし、中国語を読むときは基本的に中中辞典を使い、フランス語なら仏仏辞典を使っているのですが、そういうとき「辞書の語釈を読んでマル暗記」しようとしたことは一度もありません。

目指すところは単純で、**日本語を介さずに意味を把握する**ことにある。それを目指すのが「英英辞典づかい」というものです。その意味で、本書の p.044で見たように、名詞の challenge を difficulty に置き換えて考え、形容詞の challenging を difficult と読み換えるのは、これは「あり」。英英辞典の語釈を読んで、そのエッセンスを自分なりの表現に落とし込むのは「あり」でしょう。それは、わたしもやっています。

国語辞典（つまり日日辞典）を使うとき、語釈をいちいち覚えるように国語の先生から指導されたことのあるひとはいますか？　あなたが日本語ネイティブとして日本語の単語を使うとき、いちいち辞書に書いてある単語の語釈を思い浮かべながら話したり書いたりしますか？　そもそも、辞書の語釈はマル暗記するためのものではない。**日本語を使うときに国語辞典に向き合うのと同じ感覚で、英語を使うときは英英辞典に向き合う**のがいい。

われわれが日本語の文章を読んでいて意味のわからない単語に出くわしたとき、辞書や PC やスマホで意味を調べる。**調べて出てきた説明をそのまま暗記しようとはしない**でしょう。むしろ、**もとの**

文章に戻って「あぁ、この文が言いたいのはそういうことだったか！」と理解・納得して先へ進むのではないでしょうか。

英英辞典を使うときも、そうありたいものです。

英英辞典づかいは野球の素振りだ

英英辞典で単語の語釈を読んだら、もとの文に戻ってもういちど文全体を読み、理解・納得できるか確かめてみる。

さらに良いやり方は、語釈を読んだあとに、まず辞書に載っている**例文を読んでみて自分なりに意味が通るか確かめ**、そのうえで、もとの文に再アタック、というパターンでしょう。

語釈を読んだだけでは「何が言いたいのか」よくわからなかったものが、例文を読むことで「あ、そういうことか！」と理解・納得することがよくある。その意味で、**英英辞典の例文はとてもだいじな役割をもっている**と思います。

おそらく学習塾での促成英語教育から来るものなのでしょうが、日本で広く行われている「英和辞典や単語集で最初に出てくる和訳を暗記する」というやり方は、あくまで学習の初期に限った便宜的なものであるはずです。本来なら学習者の語彙力が2,000語を超えたあたりで、辞書の使い方を「暗記もの」から「例文を通じた理解・納得」へ切り替えるよう、生徒たちに指導すべきなのです。

TOEIC や英検の四択問題に、英英辞典で見かけた言い換え表現がそのまま出てきた！などという幸運はまずない。だったら英英辞典を使うのはムダで、やっぱり英和辞典や英和単語帳に戻るべきなのでしょうか。

わたしはこれを「野球の素振り」にたとえたい。いくらバットの素振りをし、バッティング練習をしたとしても、練習でバットを振ったとおりのコースに1ミリもたがわず投球が飛んでくることは、まずないわけですね。

それではバットの素振りはムダなのでしょうか。ゴルフのクラブの素振りはムダなのでしょうか。

TOEIC や英検準備にあたっての英英辞典の役割は、思いっきり俗っぽく言えばバットやゴルフクラブの素振りです。

「英語をじかに別の英語で言い換えて表現する」ことが臨機応変にできる能力 —— これが英語オンリーの TOEIC や英検で問われている力です。英英辞典で言い換え表現をマル暗記し、そのマル暗記内容がドンピシャでテストに出る、などということはムリすじ。しかし、英語言い換えの実例に日々触れれば、英語表現が多様であること、同じ内容を英語で表現する方法がさまざまであることを実感できます。「ことばは、同じことをいろんな言い方で言える」——こういう当たり前のことがあなたの英語の基本動作のうちに組み込まれれば、TOEIC や英検の四択問題への心理的な壁がなくなります。

脳の臨機応変力を鍛えていく —— これが目指す目標です。

「英和」辞典や「英和」単語帳を使っているかぎり、「英語を英語で言い換える」訓練はできません。